４　主な化学物質の用途と有害性

今回の報告で、排出量が多かった化学物質の用途や有害性は次のとおりです。

物質名	主な用途	人に対する有害性
トルエン	合成原料（合成繊維、染料、火薬（TNT）、香料、有機顔料、可塑剤、ガソリン成分、溶剤（塗料、インキ））	長期間にわたって体内に取り込んだ結果、視野狭さく、目のふるえ、運動障害、記憶障害などの神経系の障害のほか、腎臓、肝臓や血液への障害が認められます。また、自然流産の増加や、妊婦のトルエン乱用による新生児の発育異常や奇形、黄体ホルモンの減少などが認められています。 シックハウス症候群との関連も疑われています。
キシレン	合成原料（テレフタル酸、染料、有機顔料、香料、可塑剤、医薬品）、ガソリン・灯油成分、溶剤（塗料、農薬）	高濃度で、眼やのどなどに対する刺激性や、中枢神経へ影響を与えることが報告されています。 シックハウス症候群との関連も疑われています。
エチルベンゼン	合成原料（スチレン）、溶剤	シックハウス症候群との関係が疑われています。 動物実験で肝臓及び肝臓重量の増加、肝細胞などの腫れが報告されています。 国際がん研究機関（IARC）はエチルベンゼンをグループ2B（人に対して発がん性があるかもしれない）に分類しています。
塩化メチレン	洗浄剤（金属脱脂）、溶剤（重合用）、エアゾール噴射剤、インキ成分、ペイント剥離剤	高濃度環境下において、吐き気、だるさ、めまい、しびれなどの神経系の症状が報告されています。 発がん性については、生物細胞を使った試験管内における変異原性試験では陽性を示したと報告されていますが、動物実験では明確に陽性を示す結果は得られていません。 国際がん研究機関（IARC）は塩化メチレンをグループ2B（人に対して発がん性があるかもしれない）に分類しています。
ノルマル-ヘキサン	溶剤（重合用、接着剤、塗料、インキ）	長期間空気中から吸入した結果、頭痛、四肢知覚異常、筋力低下などが報告されています。 動物実験で胎児への体重低下が認められています。
テトラクロロエチレン	溶剤（ドライクリーニング、医薬品、香料、塗料）、洗浄剤（原毛用）、合成原料（代替フロン）	長期間取り込み続けると、肝臓や腎臓への障害が認められることがあり、比較的低濃度では頭痛、めまい、眠気などの神経系への影響が現れることがあります。この神経系や腎臓への影響に関する報告から、大気環境基準が設定されています。

出典　：「PRTRデータを読み解くための市民ガイドブック」
「化学物質ファクトシート　2012年度版」
環境省環境保健部環境安全課